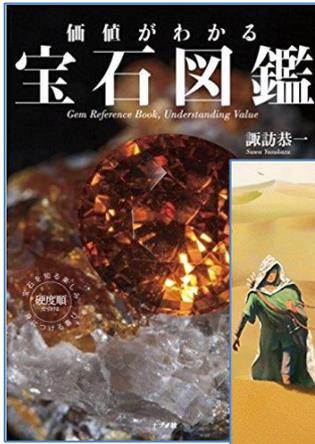


# 図書館だより⑦

2017年11月7日発行  
那覇市立鏡原中学校図書館

## 新刊本

10/31までに登録した本は722冊です。あたらしい本をかりたらちゃんと期限内に返して、次の人にかけてあげてください。お願いします。



### 貸出状況 (全学年)

2017年10月1日 ~ 2017年10月31日

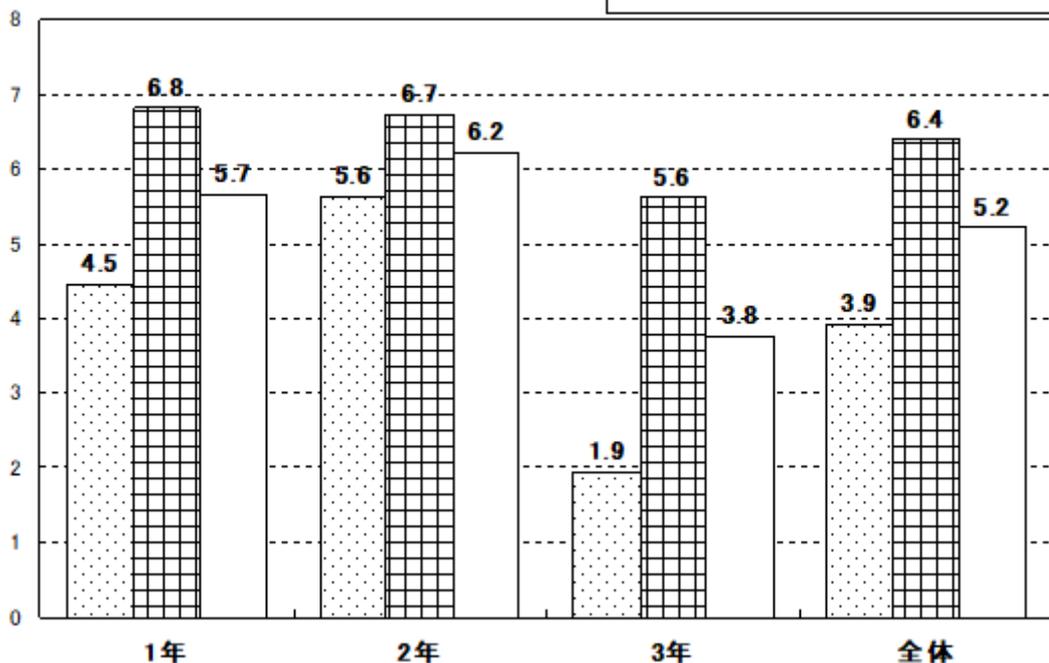
#### 1. 学年別・男女別 貸出冊数

学年	1年	2年	3年	合計
男	450	479	191	1,120冊
女	729	672	555	1,956冊
学年合計	1,179	1,151	746	3,076冊

#### 2. 学年別・男女別・一人平均 貸出冊数

(冊) 貸出統計平均(学年男女別)

□ 男平均 □ 女平均 □ 合計平均



読書月間は終わりましたが、毎日毎月が読書月間と思えるぐらい、読書に親しんでもらえたらなと思います。3年生は12月までには読書目標を達成して、朝の読書の時間には受験勉強ができるようになっていくかな。



## 今月のオススメ本

重松 清 作

### 『赤ヘル1975』

マナブは、広島市の街に転校し、ヤスやユキオと出会う。そこでマナブが見たものは、原爆の苦しみが残る街、そして広島カープを異常（??）なまでに応援する街…。広島カープが起す奇跡とともに綴られる交流・友情ストーリー。

9月に、広島県福山市のある中学校の生徒からお手紙が届きました。その内容は、簡単に説明すると「読書の授業で地域を舞台にした本を読み、その魅力を伝えるため、沖縄の学校へ読書郵便を送っていること」「1月の旅行で沖縄に行くので、沖縄について書かれている本を教えてください」との事でした。ハガキで紹介されていた本がこの本、『赤ヘル1975』です。

「広島の」原爆と野球の話…と思いきや、沖縄についても多く記載があります。舞台が1975年、沖縄が返還されて数年後である事や、広島カープの選手だった安仁屋宗八が沖縄初のプロ野球選手であった事などが書かれています。そういう記述を見るとちょっとうれしくなりますよ（安仁屋宗八選手は垣花出身なので、知っている人も多いと思います。野球好きはぜひ手に取ってみてください）。でも、それと同時に「広島の事はよそモノには分らん！」という言葉もあり、どきっとしました。「広島の事」は本でしか分からないけれど、「そんな気持ち」には正直、沖縄の人たちは共感する部分があるのかもしれない。「どうしてネットで、あんなに悪し様に言われたいいけないのか。」「沖縄の問題の難しさを、誰が分かるというのか！」みたいな…。でも、この理論がまかり通ってしまうなら、極端に言えば、「私」のツラさや経験は「私」以外の誰にも理解されないという事になってしまう…それって、寂しい話ですよ。

歩み寄ること、相手を知ること、教えてもらうこと。考えるのは難しいけれど、そんな話がぎゅっとやさしく詰まっている青春ストーリーです。必見！

（文責：うえはら）

★ 毎月第3日曜日は「ファミリー読書の日」です。

ご家庭で、親子で、本に親しむ機会を作りましょう。★

## 11月の読書目標

『身近な地域に  
親しまう。』

